

阿武プロ
NEWS
2021/02

阿武隈川緊急治水対策プロジェクト

あぶくまがわ
緊急治水対策
プロジェクト
あぶたん



当プロジェクトの
詳細はこちらから▼



国土交通省仙台河川国道事務所



震災・復興10年
進もう 次の東北へ!
～河道掘削土を、
震災復興まちづくりへ有効活用～

◆現場写真
阿武隈川下流
江尻地区河道掘削工事
〔千田建設株式会社〕

宮城県仙台地方振興事務所による
農山漁村地域復興基盤総合整備事業（山元町東部）

亘理町による
沿岸部被災地の有効利用(亘理町南須賀畑地内)

〔従前〕



狭小な10a区画や排水の不良など、旧来より低コストな営農への対応が困難であった沿岸部の低平地。

〔事業による効果〕



ほ場の大区画化（1ha）と排水対策、そして畑への農業法人等の誘致等により、低コストな土地利用型農業を実現。



排水条件の改善により、より高収益な園芸作物の導入なども推進。地域の農業振興に大きく寄与。〔写真4点：宮城県〕



東日本大震災の津波で壊滅的な被害を受けた農地。離農者が相次ぎ、深刻な担い手不足となっていた。



津波被災地域の雇用創出のため、ほ場整備事業の換地手法を用いて創出した土地へ立地企業を誘致し、地域経済の更なる発展を目指す。今回の土砂活用で、約1.3haに及び基盤造成を実施していく。〔写真：亘理町〕

- ◆緊急治水対策プロジェクトの1つ『河道掘削工事』で、約70万 m^3 （宮城県庁ビル約3個分）に及ぶ河道内土砂掘削を令和6年度末を目途に進めていきます。
- ◆今般、宮城県仙台地方振興事務所及び亘理町からの依頼を受け、河道掘削による発生土砂の一部を、地域の復興まちづくりの基盤整備として活用することとなりました。
- ◆仙台地方振興事務所では、農山漁村地域復興基盤総合整備事業により、山元町東部地区で東日本大震災の津波被害を受けた農地の復興を目指し、ほ場の大区画化や排水対策などを進め、6次産業化推進や地域雇用の場創出など、地域農業の振興に努めており、この基盤整備のうち、農地の土づくり対策に今年度は約1万4千 m^3 の掘削土砂を活用します。

- ◆亘理町でも、震災からの復興に向けて、沿岸部の被災地などへの企業誘致を進めています。そのうち南須賀畑地区の基盤造成（約1mの高上げ）に、約8万 m^3 の発生土砂の有効活用を計画しています。
- ◆まもなく東日本大震災から10年の節目を迎えます。地域の更なる復興と発展に向け、私たちも、地域の皆様と共に取り組んで参ります。